

産学交流会 STEP 1

実施報告書

日時：平成 26 年 11 月 28 日（金）

13：30～17：00

会場：堺市産業振興センター セミナー室 4

1.実施概要

【主旨】

産学交流会は文部科学省事業「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」への参加大学と大阪府事業「産学官連携による実践的キャリア教育専門家育成事業」の協働により実施します。

大学生を産業人材へと育成するキャリア教育、キャリア支援のあり方について、大阪府内（特に堺市内を重点とする）中小企業の経営者と大学関係者（キャリア教育を担当する教員及びキャリア支援に携わるキャリアセンターの職員）が、率直な意見交換をするとともに、産学が連携して実践できるプログラム（インターンシップの多様化、アクティブ・ラーニング、PBL[Problem/Project Based Learning]など）の構築を図ります。

また、プログラムの実践をとおして、大学生のキャリア教育、キャリア支援のプラットフォーム化をめざします。

日時：11月28日（金）

13:30～17:30

場所：堺市産業振興センター
セミナー室4

参加：企業 14社
・企業経営者の方等

大学 11校
・キャリア教育担当教員
・キャリアセンター職員

【STEP1 当日のスケジュール】

- 13:30～13:35 『産学交流会』開会のあいさつ
13:35～14:25 ① 企業 「新卒学用における企業のホ
ンネ」
14:35～15:25 ② 大学 「キャリア教育の現状と課
題」
15:35～16:35 ③ 企業×大学
グループディスカッション
「産業人材の育成」
16:35～17:00 <発表、共有、まとめ>
17:00～17:20 ④ 地方行政から企業・大学へ期待する
こと
17:20～17:30 『産学交流会』閉会のあいさつ
17:30～18:00 名刺交換、アンケート記入

STP1 “ホンネを語ろう！” 交流会

対象：①大阪府内中小企業の経営者

②文部科学省事業（産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業）への参加。
大学と大阪府事業（産官学連携による実践的キャリア教育専門家育成事業）への協力大学等のキャリア教育・キャリア支援担当教職員。

目的：①新卒学生の採用における大阪府内中小企業の経営者のホンネを知る。

（例：人材ニーズ、企業の意識、企業からみた学生の姿 など）

②企業ニーズを踏まえた産業人材へと導くキャリア教育カリキュラムの作成。

③企業経営者・人事担当責任者と大学教職員がホンネで語り、連携できるものを考える。

《司会・進行》産業界ニーズGP 難波祐美氏



（内容）

1.企業側から「新卒学生の採用における企業のホンネ」、

企業経営者としての考え、想いを“ホンネ”で語る。

【企業】 ●上島珈琲貿易(株)代表取締役社長 上島淳史 氏

【テーマ】：「新卒学生の採用・育成における企業のホンネ」



- (株)ピーティー・アイ 代表取締役社長 西谷則行 氏
【テーマ】： ・当社が求める人物像 ・学生と接して感じること
・採用に関しての想い ・入社後の育成について



- (株)イクストリック 人事課 篠田恭佑 氏
【テーマ】：自分の経験と採用担当者としての想い



2.大学側から「キャリア教育の現状と課題」というテーマで、考え、想いを語る。

- 【大学】●和歌山大学 システム工学部教授・キャリアセンター長 鯨坂恒夫 氏
【テーマ】：「キャリア教育の現状と課題」



●兵庫県立大学 工学部徳院教授 西尾通卓 氏

【テーマ】： 兵庫県立大学におけるキャリア教育の現状と課題
「産業界ニーズに対応した教育改善事業」を踏まえて



●追手門学院大学 就職キャリア支援課 大串恵太 氏

【テーマ】： 追手門学院大学におけるキャリア形成支援プログラムの構築



3. グループディスカッション

- 企業経営者と大学のキャリア教育担当教員が「産業人材の育成について」をテーマにグループディスカッション、意見交換を行っていただきます。

《全体風景》



グループA
「ディスカッション」



「発表」



グループB
「ディスカッション」



「発表」



グループC
「ディスカッション」



「発表」



グループD
「ディスカッション」



「発表」



グループE

「ディスカッション」



「発表」



グループF

「ディスカッション」



「発表」



【各企業、大学の現状と課題】

《企業側の意見》

1. 若い方の考え方や行動が理解できない。
2. 人は来るけど辞める人が多い。本当に就職したくて来ているのか。
3. 人材募集しているが、なかなか厳しい。(働くことに関して、どのように思っているのかわからない。)
4. 今の学生は打たれ弱く、ストレスにも弱い。企業が求める人材を大学教育の中で育ててほしい。
5. 商品知識は入社後に行う。自己PRできても、自己セールスができない学生が多い。そこを、大学に期待したい。
6. 面接の際、学生が基本に沿って行っているため、みんな同じ答えが返ってくる。パーソナリティーや思いが感じられない。多少常識がなくても、生きる目的意識、熱意が欲しい。

《大学側の意見》

1. 低年次からのキャリア教育がまだ伸びていない。
2. 大学も学生の個性を、相談の際に引き出せるように心がけている。
3. 学生の個性を大切にしたいが、優等生を育成せざるを得ない。(現実問題として、エントリーシート対策等)

【インターンシップについて】

《企業側の意見》

1. インターンシップを毎年1人受け入れているが、学生は単位が欲しくて来るだけ。企業のホンネとしては、単なるボランティアでしかない。これでは、就職につながらない。
2. 5日程度のインターンシップでは、学生の働く意欲が見えない。仕事へのやりがいも感じていない。

3. インターンシップについても、ただ単に受けに来るのではなく、興味を持って来て欲しい。
4. 業界で働きたい、向上心を持っている人を求めている。

《大学側の意見》

1. インターンシップに来るのは、社会を学ぶ、社会を知りたい学生が来る。
2. この業界に行きたいという学生は少ない。
3. それでも、社会の厳しさを教え、やる気のある学生を送り込んでいる。
4. インターンシップの5日間は拡大の方向で進めている。

《グループディスカッションまとめ》

1. 企業と大学との交流会では、企業側も、大学側もホンネで意見交換がなされた。
2. 企業が今の大学に対して思っていること、大学は、学生に対してどのような対応をしているのかなどをホンネで語れた。
3. 大学側は、現状のキャリア教育だけでは、企業も一緒になって、取組んでくれることを希望している。
4. インターンシップに関して、企業も大学も就職に結びつくインターンシップが必要との意見が多かった。
5. 「企業と大学が一緒になってできること」への提案までは、到達できていないグループが多かった。

4. 大阪府からの講演

大阪府商工労働部雇用推進室 室長 乾 俊人氏

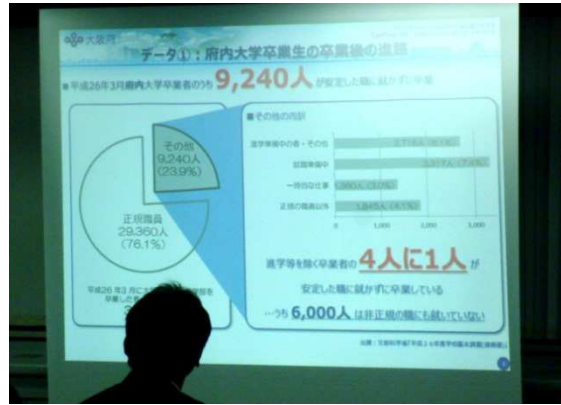
【企業、大学に向けて『産業人材の育成と採用』について、地方行政が期待すること】

- ・ 府内大学卒業生の卒業後の進路
- ・ 高校生の進学・就職数の推移
- ・ 学校卒業後3年以内離職率推移
- ・ 大企業志向による雇用のミスマッチの現状
- ・ 若者の非正規雇用率の推移

・「大人になったら働くんだよ」を認識していない若者の増加

5. 閉会のあいさつ

大阪府商工労働部雇用推進室人材育成課 課長補佐 瀬戸山貴志 氏



「大阪府 乾 俊人 室長」

「大阪府 瀬戸山貴志 氏」



《次回予告》

産学交流会STEP2は、平成27年2月23日 I-site なんばにて、
企業経営者と学生がホンネで語る会を開催する。
企業、大学生、大学キャリアセンター職員の参加を募集。